

## 第7回 川上ダムモニタリング部会 議事要旨

1 日 時 : 令和8年1月23日(金) 15:00~17:00

2 場 所 : TKP ガーデンシティ京都タワーホテル5階 カンファレンスルーム 5E

### 3 委 員

部会長	池淵周一	京都大学名誉教授
委員	江崎保男	兵庫県立大学名誉教授
	海老瀬潜一	元摂南大学教授
	角哲也	京都大学防災研究所水資源環境研究センター特定教授(欠席)
	藤井伸二	人間環境大学環境科学部フィールド生態学科准教授
	松井正文	京都大学名誉教授(WEB)
	森下郁子	一般社団法人淡水生物研究所所長

(五十音順)

### 4. 議事要旨

#### (1) 川上ダムモニタリング調査結果について

##### 【フォローアップ調査への移行】

- ・現在、試験湛水中であるが、管理のダム運用が一定期間実施されているので、モニタリング調査は終了し、フォローアップ調査に移行していくことで承知した。

##### 【水質】

- ・モニタリング期間中は大きな出水もなかったこともあり、水質に大きな問題はなかったといえる。今後も同じような状況が続くとは限らないため注意して監視していくこと。
- ・曝気設備の効果が発揮されていると評価できる。
- ・ダム下流河川の水温が上昇傾向となった場合、ダム下流のオオサンショウウオの生息状況に影響する可能性がある。長期的に水温データを蓄積しオオサンショウウオの生息状況と解析をしていくこと。

##### 【植物の重要種の保全】

- ・分散移植やプランターでの仮移植という手法による詳細なデータが取得できた。他事業でのモデルケースとなり得るため、今回の実績・事実を公表すると良い。

##### 【オオサンショウウオの保全】

- ・オオサンショウウオの保全を中心としてダム建設事業を進めてきたのは川上ダムが初めてである。川上ダムで得られたノウハウは、オオサンショウウオを始めとする大型水棲動物の保全対策に大いに適用できると考える。
- ・上流移転先で繁殖が確認されているが、今後はそこでの餌動物の維持が重要になるため動向を注視していくこと。

##### 【希少猛禽類の保全】

- ・オオタカ保全の取り組み(Bつがい)は成功した。現在、ダム周辺ではハチクマ、サシバ等、他の多くの猛禽類が繁殖している。
- ・ダム周辺で多くの猛禽類が生息・繁殖していることは川上ダムのアピールポイントになるので、川上ダムを利活用していく際のPR材料とすると良い。

### 【水源地域動態調査】

- ・ダム湖及び周辺環境の利活用が環境保全に繋がると考えられるため、利活用を積極的に進めていくことが良い。
- ・地元で中心になって活動してくれる人達や組織が上手く育つということが大事である。ダムの活用を考えてくれる人が一人でも増えるように広報を工夫することが望ましい。

### (2) 今後の調査方針（フォローアップ調査計画（案））

- ・水質自動観測は、計器の点検・調整ごとに測定値の不連続やベース値の変動等の出現する水質項目がありうるので、観測精度は実測値との比較をしてチェックし、計器の点検・調整の頻度の改善に配慮すること。
- ・環境 DNA 調査の調査計画について、専門家のアドバイスをよく聞いて実施すること。また、文献調査は必ず実施し、文献確認種と環境 DNA 調査で検出された種に漏れがないように注意すること。
- ・国外外来種については、アメリカザリガニ等の確認しやすい大型の種だけでなく、貝類やウズムシ類等の確認しづらい外来種の動向にも注意すること。

### (3) その他

- ・ダム下流の土砂還元やフラッシュ放流については、今後、刻々と河川環境は変化していくため、出来ることを早期に実施すること。

以 上